

2022年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 笑顔つながるささやまステイ実行委員会

代表者・役職名 氏名 代表 中村伸一郎

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

笑顔つながるささやまステイ2022事業

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

福島第1原発事故で放射能の影響を受けている子どもたちとその保護者の被ばく量を減らすため、福島の親子を2012年から招いていた「ささやま里ぐらしステイ」の活動終了に伴い、その当時ボランティアとして関わったメンバーを中心に、事業を引き継ぐために2015年に創設した。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

- ① 福島第1原発事故で放射能の影響を受けている子どもたちとその保護者の被ばく量を減らす。
- ② 福島の今や福島にお住まいの方・避難者・帰還者の状況と課題を広く伝え、支援の輪を広げるとともに、原子力災害への備えについて伝える。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ① 福島第1原発事故で放射能の影響を受けている子どもたちとその保護者を丹波篠山に招く、保養プログラムを実施した。
- ② 「福島の今」「原発事故の影響を受けている方々の今」を伝えるため、福島からの避難者、井上美和子氏の朗読会を開催した。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

8月8日～13日の5泊6日、6世帯(保護者6人、子ども13人)を迎え、笑顔つながるささやまステイを実施した。子どもたちは放射線量の低い丹波篠山の豊かな自然の中で思いっきり遊び、被ばく量を減らすことができた。保護者には社会福祉士によるケアプログラムを実施し、子どもたちを守るためにも自分を大切にすることに気づく機会を提供した。

多くの人に関わってもらうこと、また井上美和子氏の朗読会に参加してもらうことで、今なお放射能の影響を受けている人たちがいることを広く伝えることができた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回、事前にコロナ対策を十分に検討していたつもりであったが、プロジェクト期間中に感染が拡大してしまい、参加者に迷惑をかけてしまった。今後、コロナがどのように収束していくのか、現時点ではわからないが、状況に応じて必要な準備を進めていきたい。

福島第1原発事故から11年がたったが、帰還困難区域だけでなく、放射線量の高いスポットも点在しており、放射能の影響は今なお続いている。「子どもたちを放射能被ばくから守りたい」という保護者の思いはこれからも続く。活動を今後も継続するとともに、その必要性、福島の今をより多くの人に伝えていきたい。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

